

The Three Peace Times

Three Peace : More fortunate than happiness.

Vol. 5



もくじ

- | | |
|---|--|
| ● <small>じりつせいかつ</small> 自立生活について伝える会 <small>つだ かい</small> P. 2 | ● <small>ほーむぺーじ</small> HP リニューアルのお知らせ <small>し</small> P. 6 |
| ● <small>かどうしき</small> 可動式ホーム柵検証報告に参加して <small>さくけんしょうほうこく さんか</small> P. 2 | ● <small>たいけんこうざ</small> ピアカン体験講座のお知らせ <small>し</small> P. 6 |
| ● <small>じるけんしゅう そうかい さんか</small> JIL研修と総会に参加して P. 3 | ● <small>ごうどう かいさい</small> 合同セミナー開催のお知らせ <small>し</small> P. 7 |
| ● <small>じりつせいかつ</small> ハラハラドキドキ自立生活 P. 4 | ● アクセス P. 8 |
| ● <small>しんじん しょうかい</small> 新人メンバー紹介 P. 5 | ● <small>こうえんかいいんぼしゅう</small> 後援会員募集 P. 8 |

●「自立生活について伝える会」

平成26年3月29日(土)に下京区いきいき市民活動センターにて、「自立生活について伝える会」を開催しました。

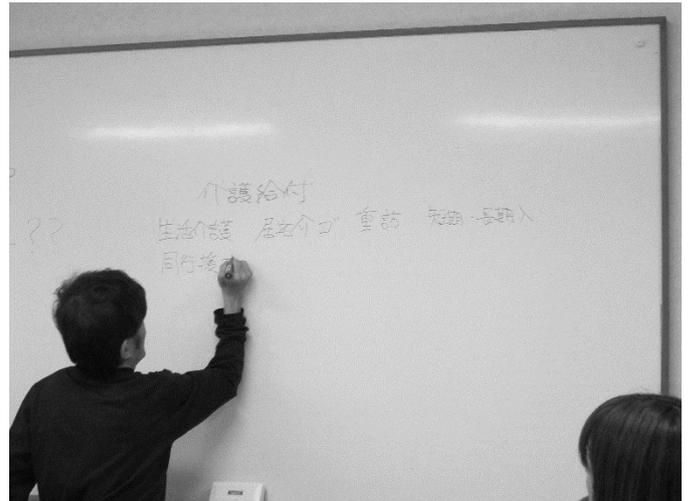
スリーピースの当事者4人で、自立生活センターとして活動していること、理念や目指すものについて語り、また当センターの当事者が生活している様子や知的重度障害のある方で一人暮らしをしている人の生活についての話、制度について簡単に説明をしました。

このセミナーが自立生活って何だろう?と考える機会になって、障害のある方の実際の生活を知ってもらったり、自立生活センターの思いについて伝える中で、参加者の方にそれぞれが今感じる思いを少しでも出せる機会になればと思います。

話をしていく中で感じたことは、障害のある人の生活といっても、一人ひとり違うことが当たり前であること。だからこそ、いろんな人の生活を知っていくことで自分の生活に繋げていく何かのプラスになったり、ヒントになったりするのではないかと思います。

またどんな人でも自分のしたい生活を実現することは不可能ではないということ、その為には周りにいるいろんな人のサポートを受けてもいいということ。

私達だからこそ伝えられる事を発信し続けていくことは一つの大事なことであったと改めて感じました。



●可動式ホーム柵検証報告に参加して

アクセス関西ネットワーク主催の『障害者の立場で安全な駅利用を考える可動式ホーム柵3タイプ・検証報告』が5月12日、大阪市大淀コミュニティセンター・ホールで開催されました。JRゆめ咲線桜島駅、東急田園都市線つきみ野駅、相模鉄道いずみ野線の3駅に設置されているホーム柵について利用しやすいかどうか、障害当事者の立場から検証し、その様子が報告されました。

京都市では平成27年、市営地下鉄烏丸線烏丸御池駅に可動式ホーム柵が設置され、以降、四条駅、京都駅の順に設置場所が拡大されていく予定です。

しかしながら関西は、関東に比べホーム柵の設置が遅れており、転倒・転落事故が後を絶ちません。また、意見

交換の場所、モニタリング機関の設置など、障害当事者たちが行政機関や事業者等と協働していただける場所や
機会の設置がまだまだ遅れています。

誰でも利用しやすい駅を目指して、私たちが努力をしていかななくてはなりません。

注1) 市営地下鉄東西線(太秦天神川駅から六地藏駅間)については全駅可動式ホーム柵設置済み。烏丸御池駅の可動式ホーム柵設置に関する情報は以下のホームページに記載されています。

京都市交通局(2014)『地下鉄烏丸線への可動式ホーム柵の設置について(烏丸御池駅烏丸線ホームの列車停止位置の変更について)』(<http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000166893.html> 2014/5/26)



●JIL 研修と総会に参加して

5月27日から29日の3日間、JIL(全国自立生活センター協議会)の研修と総会に行ってきました。今年は大阪市の「マイドームおおさか」で行われました。相談支援や尊厳死など、いろいろな内容がありましたが、個人的には、難病の方に対するCIL(自立生活センター)としてのサポート実践例が特に気になりました。

スリーピースが関わっている方とは診断名や状況も違うので、ちょっと実感しにくい部分もあったのですが、共感できたり考え方の部分で参考になったりと、いろんなことを感じることができました。

尊厳死法については、名前や多くの課題があることは聞いていましたが、どんな内容で、どんな課題があるのかは、恥ずかしながら把握できておらず、たくさん新しい発見がありました。

普段、なかなか会わない人や、久しぶりに会う人がたくさんいて嬉しかったし、自分より若い人もたくさんおられ、新人だった頃より何か雰囲気が変わっていることにびっくりしました。



●ハラハラドキドキ自立生活

今年5月に地元舞鶴市から京都市に引っ越して、自立生活を始められた岡山さん。遠位型ミオパチーという障害があり、車いすに乗りながら生活をされています。今回は、そんな岡山さんとスリーピース代表の白杉が対談し、自立生活に対する想いをお聞きしました。

➤ まず、自己紹介をお願いします。

岡山ゆみと申します。よろしくお願ひします。遠位型ミオパチーという筋肉の病気が原因で中途障害です。自立生活をするに当たって、京都府北部の舞鶴市から引っ越してきました。遠位型ミオパチーとは、筋力が少しずつ落ちていく病気で、手足など体の中心から遠い位置から症状が出始めるので「遠位型」と呼ばれています。現在の私は上肢、下肢とも全廃で、日常生活において全介助が必要な状態です。

➤ 舞鶴での生活は？

介助は、同居していた母がほとんどでした。ヘルパー利用は、週3回の洗髪(その時に必要ならトイレ介助も)が基本で、母の外出時にとときどきトイレ介助、たまに外出で移動支援を利用していました。居宅では身体介護、移動支援は利用できませんでしたが、重度訪問介護を日常的に利用できる体制にはなっていませんでした。また身体介護でも、深夜は緊急などイレギュラーなとき以外、日常的には対応できないとのことでした。つまり、重度訪問介護の利用者がゼロだったわけで、それでも舞鶴市の福祉は、京都府北部の中では一番良いとよく聞いていました。

➤ 自立のきっかけは？

親から離れて暮らすことは、何年も前から考えてはいました。私の病気は進行していき、介助がどんどん必要になります。しかしそれに反比例して、親は加齢によって介助に必要な身体能力が落ちていきます。また、加齢の影響もあるでしょうが、長年の介護疲れで気力の面でも年々すり減らせていたと思います。そこで現在と将来のことも考えると、施設か地域で自立生活かの2択だと思いました。自立生活をしている重度身障者の存在は、テレビなどで見聞きして知っていたし、自立生活をされた方がより私の望む生活ができるのではとも思いました。

➤ 自立生活を目指す上で大変だったことは？

自立生活についてネットで調べているときに、全国自立生活センター協議会のサイトを見つけました。それで、全国自立生活センター協議会に加盟している自立生活センターへ話を聞きに行くことにしたのですが、そのための長時間の外出に関する諸々が大変でした。病気の進行に伴い、座席への移乗、お手洗いなど一人介助では不可能なことが増えていたので、近年は長時間の外出はしなくなっていました。舞鶴で利用していた移動支援は、二人介助の前例がなく、二人介助を認めてもらえなかったこともあって、1人はヘルパー、もう1人は友人やボランティアさんをお願いして、何とか来てもらっていました。そうしているうちに、重度訪問介護なら二人介助可能と自立生活センターの方に教えてもらい、途中から利用することができました。他にも、地方からの交通費が介助者分も含めると高額になったり、移動手段が限られたりと、社会資源の少ない地方からアクションを起こすのは本当に骨が折れると思いました。

➤ 実際の自立生活で大変なことは？

ヘルパーやその他たくさんの方が常時出入りする生活に慣れるのが大変でしたが、多くの方々の配慮のおかげもあって、想像していたよりは早く慣れていきました。しかし制度設計上、私の望むヘルパー利用の仕方ができなかつたり、必要としている利用時間数を認めてもらえなかつたりで、まだまだ思うようにはいかない部分があります。

➤ 反対に楽しいことは？

生活全般において自己決定する部分が増えたことです。自分の意思を反映できる物事がたくさん出てくると自分の生活をしているという実感が持てて、こういうのちょっと忘れていたなあと思います。もちろん、それが大変な時や面倒な時もありますが…あと、二人介助でも無料や低運賃で利用できる交通機関が発達しているので、以前より気軽に外出できるのもいいです。

➤ 最後に、今後の希望や目標は何ですか？

映画を見に行ったり友人と出かけたり、近年はあまりできていなかったのが楽しみたいです。自立生活はまだ始まったばかりですし、あまり何かに限定せず可能性を探っていきたいです。そのために、いろいろな人に出て話を聞いたり見学に行ったり参加したりして勉強できればいいなと思います。きっと一筋縄ではいかないこともある、というかそんなことだらけかもしれませんが、理解してもらえるように人に伝えることを大事にしていきたいです。

● 新人メンバー紹介

皆さん、初めまして。今年4月に当事者スタッフになりました北本晴雄と申します。脳性マヒの障害があり、電動車イスに乗りながら生活しています。マジメで、オチャメで、おまけに蚊にかまれやすいという特徴があります。趣味は、ディジュリドゥ（オーストラリアの先住民であるアボリジニ達が演奏する楽器）を演奏することです。旅行も大好きで、最近では東南アジアに行きたいという夢があります。スリーピースでは、“超一流”のスタッフを目指して頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします！！



●ホームページリニューアルお知らせ

スリーピースのホームページが新しくなりました！！

スリーピースの日々の活動のほか、研修やセミナーの案内、いままでの機関誌のバックナンバーなどなど読むことができるようになりました。

さあ、今すぐスリーピースの新しくなったホームページをブックマークに登録！！



アドレスは
こちら

<http://threepeace-k.com/>

●ピア・カウンセリング体験講座開催のお知らせ

ピア・カウンセリング体験講座を開催し、実際に体験してもらい、たくさんの方にピア・カウンセリングを知ってもらおう機会にしたいとおもいます。ピア・カウンセリングには、どんな障害のある人も参加でき、自分の気持ちを話したり、お互いの話を聞き合ったりして、いろんな気持ちに感じ、気付いていく働きがあります。自分の気持ちを出していくこと、話をよく聴くことを、安心して体験してみてください。

日時：2014年 8月30日（土） 受付：12：30～ 講座：13：00～17：00

場所：京都市下京区いきいき市民活動センター

対象：ピア・カウンセリングに興味のある障害のある方（手帳の有無は関係ありません）

定員：5名程度 参加費：500円 リーダー：岡本 幸恵、白杉 眞（自立生活センタースリーピース）

詳しくは、折込みチラシをご覧ください。

●スリーピースとまごのてグループ合同セミナー開催のお知らせ

この度、特定非営利活動法人スリーピース 自立生活センタースリーピースとまごのてグループ株式会社では、合同セミナー『～シリーズ企画～テレビで見る障がい者ってホント?!』を開催いたします。

みなさんのご参加をお待ちしております。

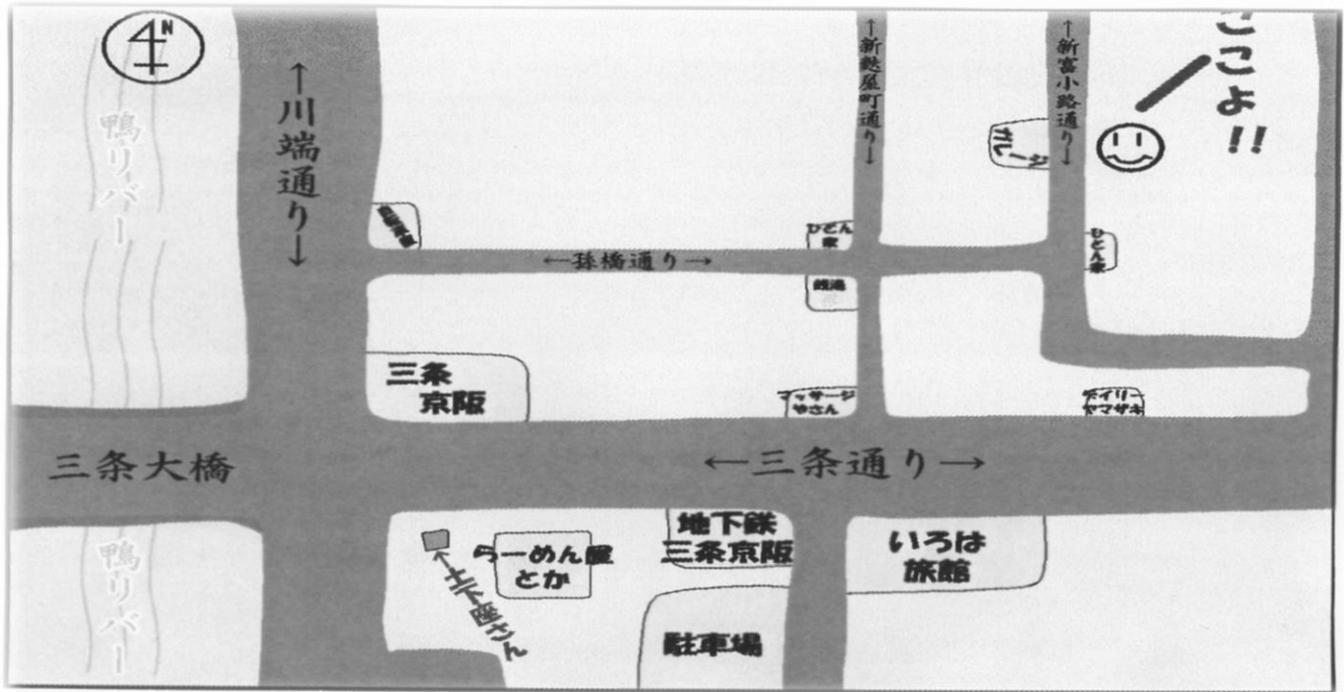
- 第一弾（9月23日・土） ～ 24 時間テレビとは何だったのか?～
- 第二弾（10月25日・土） ～バリバラって面白いの?～
- 第三弾（11月24日・月/祝） ～障がい者がテレビに言いたいこと・健全者が障がい者に聞きたいこと～
- 開催会場 ハートピア京都（京都府立総合福祉会館）
- 開催時間 14:00 - 16:00（全日程共通）
- 参加費 無料、事前申込み不要

詳しくは、折込みチラシをご覧ください。



※前回のセミナーの様子

●アクセス



【開所日】 〇月曜～金曜（日祝、8/13-15、12/30-1/3を除く）
 【開所時間】 〇朝10時～夕方6時 開所時間外は、転送電話で対応します

●スリーピースの活動を応援していただける後援会員のかた大募集！！

後援会員（団体）一口以上 3,000円 （個人）一口以上 1,000円
 ＊後援会員のかたには機関誌をお送りします。（なお、スリーピース利用者の方には無料でお送りしています）

【振込先】

三菱東京UFJ銀行 京都支店（店番431）普通 3084788
 特定非営利活動法人スリーピース 理事長 白杉真

編集後記

さっちゃんです。京都は本当に暑い…。京都に来て2回目の夏ですが、まだこの暑さは慣れません(^_^;皆さんは夏バテしていませんか？まだまだ暑いですが、スリーピースはこれからピアカン講座やセミナーなどいろいろあるので、皆さん興味のある方はぜひ参加してください！お待ちしております。

発行日／2014年8月1日

編集／特定非営利活動法人スリーピース

連絡先／〒606-8365

京都市左京区新富小路通仁王門下る讚州寺町223

ルシエル三條大橋106

TEL：075-751-2711 / FAX：075-275-8736

E-mail：threepeace_kyoto@yahoo.co.jp